

令和6年12月17日開催
 令和6年度第2回岡山市自然環境保全審議会
 指摘と対応（案）

「(仮称) 生物多様性おかやまプラン」の策定に関連する事項について、下表のとおり整理した。

	区分	指摘内容	対応
審議事項1：(仮称) 生物多様性おかやまプランの策定について			
1	地域区分について	<p>里地里山エリアと低地・干拓地エリアは、昔の陸地だった部分と海だった部分（現市街地と干拓地）による区分のようだが、陸地と水域に区分するならば、川と丘という区分もある。[山地委員]</p> <p>➡生き物の視点で見ると水辺があるところとそうではないところで区分する見方は良いともいえ、環境的に河川を重視することは大切と考えるが、入り組んだ河川の形状は地図的には分けづらくなる。[中村会長]</p>	<p>陸域と水辺の地域区分は提案した形で進めたいと考えますが、今後、水とみどりの軸で生態系ネットワークを示す際に、市域を貫く縦の水の繋がり軸という点で、河川を重視したあり方を示していきます。</p>
2	アンケートについて	<p>中高生や若者の回答で「自然が多い」という結果が出ているが、これは「自然が豊かだ」というポジティブな意見なのか、「都会じゃなくて田舎だ」というネガティブな意見なのか。それがどちらなのかによって、将来の方向性が変わってくるのではないかと。[中村会長]</p>	<p>アンケート結果からはどちらの意見か読み取ることはできません。事務局としては、どちらの意見もあるというように（ポジティブに）捉え、おかやまプランに反映させていきたいと考えます。</p>
3	目指す将来像（案）について	<p>案4の「自然のめぐみ」を「旭川のめぐみ」に変えると岡山らしさを示す表現になるのではないかと。</p> <p>また、「まち」という表現を自然と一体になったような言葉にできるとよい。[山地委員]</p>	<p>「旭川」のような特定の河川名を入れるのはイメージが限定的になるため、今回は見送ることとしました。</p> <p>また、「まち」の表現については、市民の多くが市街地に集中している岡山市だからこそ、「まち」を入れることで「自然も含めた市域全体が自分たちの住むまち」ととらえてもらえると考え、「まち」を残しました。</p>
4		<p>「ネイチャーポジティブ」という言葉は今の時代、今回の見直しに合致するものとはいえるが、新しい言葉には</p>	<p>「ネイチャーポジティブ」の表現については、ずっと入ってこない、十分な浸透が図れないといったご意見が全</p>

	<p>メリットとデメリットがある。</p> <p>分かりやすかったのは案4で、「持続可能な社会を実現するまち」という表現が入るのはよい。[宮崎委員]</p>	<p>体として多かったと思われることから、この表現は候補から外すこととします。</p> <p>また、「持続可能な社会を実現するまち」の表現については、将来像案を再検討した結果、案1の「森、里、川、海、人」、「つながり」と、案3の「自然と人が共生する」という表現を残しながら、前回ご提示した6案から2案に再整理することとしたため、候補案から外しました。</p>
5	<p>「岡山市=水、川、水辺」のイメージが大きく市民の中にはある。案5の「水」というキーワードはとてもよい。[八田委員]</p>	<p>将来像案を再検討した結果、案1の「森、里、川、海、人」、「つながり」と、案3の「自然と人が共生する」という表現を残しながら、前回ご提示した66案から2案に再整理しました。おかやまプランでは河川や海の存在そのものも重視したいとの考えから、今回は「水」という言葉は使わないこととしました。</p>
6	<p>具体的な地名を入れるのは、岡山市らしさが出てよい。</p> <p>自然の利用とそれを身近に感じるようなことが両方入っているほうが好感を持てる。</p> <p>人と自然が両方とも手をつないでいけるような印象の言葉があるのもよい。</p> <p>あるいは、今あるプランから言葉をシャッフルして使用してもよいのではないか。[堀江委員]</p>	<p>「旭川」のような特定の河川名を入れるのはイメージが限定的になるので、今回は見送ることとしました。</p> <p>その上で、案1の「森、里、川、海、人」、「つながり」と、案3の「自然と人が共生する」という表現を残しながら、前回ご提示した6案から2案に再整理しました。</p>
7	<p>基本戦略の中から目指す将来像をはめていけばいいのではないか。[池本委員]</p>	<p>ご意見いただいたように、基本戦略や具体的な施策の中身から将来像を描く方法もありますが、おかやまプランでは、最初に目標とする「将来像」を描き、それを実現するための道筋を現在へ遡って考える方法（バックキャストイング）で全体像を描いていきたいと考えています。</p>
8	<p>「水」というとどうしても「H₂O」</p>	<p>ご意見をふまえ、「水」や「水辺」</p>

		<p>のイメージになるので、「岸辺」や「せせらぎ」などの言葉がよいのではないか。[山地委員]</p>	<p>に関する様々な表現について検討しましたが、それぞれの表現から抱くイメージが各人で必ずしも一致しないこと、またおかやまプランでは河川や海の存在そのものも重視したいとの考えから、今回は「水」という言葉は使わないこととしました。</p> <p>なお、より良い表現については引き続きご意見を賜りたいと考えます。</p>
9		<p>案2の「森、里、川、海、人」がつながっている感じがよく、これらのつながりを感じて「持続可能な」とか「自然と人が共生する」というような後に続けてもいいのではないか。[堀江委員]</p>	<p>ご意見を参考に、案1の「森、里、川、海、人」、「つながり」と、案3の「自然と人が共生する」という表現を残しながら、前回ご提示した6案から2案に再整理しました。</p>
10		<p>案2の「森、里、川、海、人」に「道」というのが入ったらいいのではないか。[山地委員]</p>	<p>ご意見を参考に将来像案を検討しましたが、将来像を単独で見た場合に、おかやまプランに「道」という言葉を入れた意図が一般の方に伝わりにくいのではないかと考えられたことから、今回の案では「道」を入れることを見送ることとしました。</p>
11		<p>「水と緑」という言葉は岡山市がよく使っており、そこからもう一段具体的に述べた列挙型の「森、川、海」などが出てくる案がいい。</p> <p>また、後半に「感じる」や「共生する」など色々な表現があるが、「つなぐ」という言葉があると、市民の人たちのアクション、主体的につないでいくという行為を求めているというニュアンスが出ると思うので、「つなぐ」という言葉がよいのではないか。[大塚委員]</p>	<p>ご意見を参考に、案1の「森、里、川、海、人」、「つながり」と、案3の「自然と人が共生する」という表現を残しながら、前回ご提示した6案から2案に再整理しました。</p>
12	状態目標について	<p>「保全」と「再生」をもう少し明確に分けることで、その具体的なプラン、例えば市民ワークショップのような企画がしやすくなり、皆さんが自分事と考えやすくなるのではないか。[田辺委員]</p>	<p>「保全」と「再生」は「守る」と「創る（創出する）」「再生する」などの言葉に換言することもできますが、その言葉からも、それぞれの言葉が意味する行為・行動は異なることがわかります。よって、施策（施策体系でい</p>

			うところの「行動目標」あるいは「施策」) も合わせて検討することで、分かりやすい状態目標の設定を図ります。
13		状態目標の中に「生態系サービスの恩恵を正しく認識できている」というような一節が欲しい。生物多様性という言葉が非常に多いが、それに絡めて生態系のサービスの恩恵を受けているということにつなげていけるような目標設定ができるといい。[大塚委員]	基本戦略の「生物多様性を支える：生物多様性を育む人づくり・仕組みづくり」は「個人個人が受けている自然からの恵み、生態系サービスからの享受というものと、それに対する私たちの役割」を市民が正しく認識していただくための戦略という位置づけで、めざすものは同じという認識であります。その上で状態目標の「生物多様性の恵みを意識したライフスタイルへの転換が進んでいる」に包含されると考えました。
14		「生物多様性を意識したライフスタイル」について、「生物多様性に配慮したライフスタイル」のような表現に変えると、もっとふんわりと自分のライフスタイルにこういうものを取り込めばいいんだという意識になり、広がりを持たせられるのではないか。[田辺委員]	生物多様性の恩恵の上に私たちの生活が成り立っているということを正しく認識し、私たちのライフスタイルに反映させていくことの重要性をご指摘いただいたと理解しております。従って、基本戦略「生物多様性を支える：生物多様性を育む人づくり・仕組みづくり」の状態目標の「生物多様性を意識したライフスタイルへの転換が進んでいる」を「生物多様性の恵みを意識したライフスタイルへの転換が進んでいる」と修正したいと考えております。なお、より良い表現については引き続きご意見を賜りたいと考えます。
15		生物の生息地は人の都合で設定された市境とは関係なく存在するものなので、「他市町村も含めた市域とその周辺地域との有機的な連携を取った上で岡山市の生物多様性、保全がなされる」というような指摘が、おかやまプランのどこかに欲しい。[大塚委員]	ご意見を踏まえ、おかやまプランの第2章「岡山市の生物多様性の現状と課題」において、周辺市町村との連続性を重視する視点を追記します。
16		「人づくり、仕組みづくり」という表現より、「個人個人が受けている自然からの恵み、生態系サービスからの	基本戦略の「生物多様性を支える：生物多様性を育む人づくり・仕組みづくり」は「個人個人が受けている自然

		<p>享受というものと、それに対する私たちの役割」というような表現のほうがよいのではないか。[宮崎委員]</p>	<p>からの恵み、生態系サービスからの享受というものと、それに対する私たちの役割」を市民が正しく認識していただくための戦略という位置づけで、めざすものは同じという認識であります。</p>
17		<p>「生物多様性を意識したライフスタイル」というものが直ぐにイメージできない。むしろ一般の方からすると、自分の生活にそれをどう結びつけたらいいのかというところが具体化されると分かりやすいので、施策の部分でどういうものがそれに組み込めるのかを検討いただきたい。[堀江委員]</p>	<p>次回の審議会で、状態目標の「生物多様性を意識したライフスタイル」に紐づく施策（施策体系でいうところの「行動目標」あるいは「施策」）の案をいくつか具体的に示すこととします。それを踏まえ、再度この状態目標の設定について、ご意見を賜りたいと考えます。</p>
18		<p>ライフスタイルということについて、道を歩いていると高い塀がずっとつながっているような町よりも、生け垣がつながっている町のほうがいいと感じる。そのよう都市計画的なことも考えてみてはいかがか。</p> <p>また、岡山市の場合、人が散歩することを主な用途とした道があまりないように思うが、蒜山にあるサイクリングロードのように、その道自体が公園のようなものがあると非常にありがたい。[山地委員]</p>	<p>都市計画的な内容については、おokayまプランの中でどこまで言及できるかは判断が難しいところですが、生け垣など人にも生き物にもよい構造物のあり方という視点であれば、扱うことができるかもしれません。そのような具体例を考えながら、入れ込める施策について幅広く検討を進めたいと考えます。</p>
19	その他	<p>状態目標のところ「農地の保全」などの農林水産業関係のことが入っているが、事業者アンケートでは農林水産業の方からの返答がゼロ%であった。これを進めるには、現場の方々の理解が重要だと思うので、何らかの形で農林水産業の方の意見を得る必要があるのではないか。[堀江委員]</p>	<p>これまでにワークショップ等で協力いただいている農業従事者の方等がいることから、施策体系構築の作業の中で直接ヒアリングをさせていただくなど、ご意見を聴取する方法を検討し実施したいと考えます。</p> <p>→JAグループ様とのつながりがあるので、必要であれば協力は可能である。 [田辺委員]</p>
20		<p>骨子案の中で、「谷戸」や「谷津田」という言葉があるが、これらの言葉は岡山では普通に使われていないのではないか。[池本委員]</p>	<p>ご指摘を踏まえ調べたところ、一般的に使われるようになってきている言葉ではありますが、元々は関東や東北地方で使われてきた言葉であり、岡山市ではそれほど浸透していない言葉であ</p>

		ることがわかりました。したがって、「谷に形成された水辺」などのように具体的にイメージできるような言葉に置き換えることとします。
--	--	---

以上